

くらみつ かずむ
藏満 司夢 (生命環境学群 生物学類 4年)



つくバグって？

つくバグは、地域の小・中学生を対象に昆虫採集を中心とした自然体験教室を行っている、学生だけで構成される団体です。メンバーは生物学関連の学類に所属する学生を中心に15名ほどで構成されています。活動は2010年から行っており、これまでに計6回、延べ約150人の参加者を対象に自然体験教室を行ってきました。ちなみに「つくバグ」の名称は、「つくば」と「bug (虫)」を掛け合わせたものです。

遊びとしての昆虫採集

少し前まで、日本の子どもたちにとって昆虫採集はもっとも身近な遊びのひとつでした。子どもたちは昆虫を追いかけることで身近な自然、生きものに触れたり、季節の移ろいを肌で感じたりすることができました。しかし、近年では子どもたちにとって昆虫採集は以前ほど身近なものではなくなり、それと同時に自然と触れ合う機会も減少しているように思われます。その一方で、世間では地球温暖化や生物多様性の減少といった環境問題の発生に起因して自然環境への関心が高まっているわけです。自然環境のことを考えるためには、まずはそれに目を向け、よく知る必要があるのではないかと、私たちはそこに問題意識を持ちました。

現代の子どもたちの自然と触れ合う機会が減少した理由としては、自然そのものの減少もさることながら、子どもたちの親の世代が自然体験に乏しいために、子どもたちにその方法を教えたり、機会を提供したりということができなくなっているのではないかと考えています。

そこで、我々はずっとも身近な生きものの一つである昆虫に目を向けました。昆虫は身近にたくさんの種類がいるため多様性を感じやすく、また程よい大きさのため手に載せて見ることができます。そこで地域の子どもたちを集めて、昆虫採集や観察の方法を教えつつ身近な自然の見つけ方、自然とのふれあいを体験する場を提供しようと考えたのです。

観察会の実施

つくバグではこれまでに、春バグ(春の観察会、以下同)1回、夏バグ4回、秋バグ1回を行ってきました。参加者は地方情報誌への広告掲載や公共機関へのポスター掲示などを通して募った地域の小・中学生で、小学1年生から中学3年生まで幅広い学年の子どもたちが参加してくれています。また観察会は筑波大学内の雑木林などで行っています。観察会の午前中は毎回野外での観察と昆虫採集を行い、午後はスケッチ教室、標本教室など、その都度異なったこ

とをしています。参加者の中にはほとんど昆虫に触れたことがないような子どもたちもおり、「貴重な経験となった(保護者談)」など、子どもたち、保護者の双方から概ね好評を得ています。

今後の展望とメンバー募集

観察会に参加してくれる子どもたちにはリピーターも多いため、できるだけ毎回異なる内容の企画を行いたいと考えています。そこで、つくバグでは自然体験や環境教育に関心があり、つくバグに新たなアイデアと活力を提供して下さるメンバーを募集しています。ご関心のある方はtsuki.hi.hoshi.hoihoi@gmail.com(代表、藏満)までご連絡ください。

また、つくバグではwebサイトを運営しています。<http://www.agbi.tsukuba.ac.jp/~tsukubug/index.html>ぜひご覧ください。

※平成24年度につくバグの活動は「平成24年度筑波大学社会貢献プロジェクト」,「2012年度東京ガス環境おうえん基金」の助成を受けて行っています。



野外観察、昆虫採集の様子



スケッチ教室での参加者の作品集